File NO 14
2022.3

サトコジファイル

Satokoji File

福生市議会議員
佐藤こうじ
議員活動レポート

福生「生きがい都市」宣言！

障害児や特性のある子のために！
専門的療育機関（児童発達支援センター※1など）の市内設置を要望！

近年、幼児教育・保育の現場において障害児および特性のある子等の保育が大きな課題となっています。福生市においてもこうした子どもは増加しており、根本的な解決に向け、専門的療育機関等の市内設置及び関係機関との連携強化に関する要望書の提出（2月18日提出）を清水義朋議員と共にサポートしました。

※1：地域の障害のある児童を通所させて、日常生活における基本的動作の指導、自活に必要な知識や技能の付与または集団生活への適応のための訓練を行う施設
※写真右から、福生市私立幼稚園連合会 涌井弘子会長、福生市保育協議会 津島知津子会長、清水義朋議員

※写真：教育広報『福生の教育 74号』（令和3年10月15日発行）より

ドローンの寄贈をサポート ～それ福生にください！～

以前勤務していた、株式会社木村工業（八王子）の木村信夫社長が「練習用の小型ドローンを有効に活用してほしい」とのことで検討し、教育委員会に寄贈することになりました。すでに市内の7校の小学校に配布されています。プログラミング教育興味をもってもらうためのツールとして役立つとのことです。寄贈先の検討にあたっては清水義朋議員にもご尽力いただきました。先に50基の寄贈を行い、感謝状贈呈の際にさらに30機ご寄贈いただきました。日ごろのご縁が、福生市の子どもたちの教育つながり大変うれしく思うとともに、木村社長に改めて感謝申しあげます。

令和3年12月議会での一般質問

1 富士見通り線整備事業および沿道のまちづくりについて

質問のねらい

福生駅東口飲食店街を貫く富士見通りは拡幅に向け整備が進んでいます。コロナ禍で休止状態の道路用地の活用など、地域の活性化に資する取り組みを再開する声もあり、工事のスケジュールを改めて伺いました。また私は、この地域が活性化していくためには「居心地がよく歩きたくなる」街中の形成が欠かせないと考えます。その意向を確認しどのように進めていくかを問いました。

工事等の進捗およびスケジュールについて

質問　道路用地の利用について、また今後の工事のスケジュール等は？

答弁　工事期間中の道路用地の利用については、地域の活性化や新たな賑わいの創出などの観点からも、安全が確保できる場合には協力する。用地取得の進捗にもよるが、計画では、下水道工事（羽村側）は、令和3～4年年度いっぱい、下水道工事（昭島側）は、令和5年度いっぱい、水道とガス工事が、令和5年度から6年度いっぱい、電話及び電線類地中化工事が令和7年度から10年度まで、そして道路築造工事が令和11年度～12年度中に終わり、この12年度中に供用開始の予定。

富士見通りにおける「ウォーカブルなまちづくり※1」について

質問　福生駅西口と合わせて富士見通り周辺もウォーカブルなまちづくりを進める必要があると考えるが所見は？

答弁　福生駅西口と異なり、富士見通り線整備事業では、ウォーカブル区域の設定は行っていないが、当初計画していた歩道内の自転車通行帯を車道へ移し、歩道の一部を「歩行者の利便増進を図る空間」として活用するなど、安全で安心な歩行空間の確保や周辺地域の回遊性の拡大等、いわゆる「ほこみち制度」を活用するなど、ウォーカブルな空間の整備について推進したい。

※1「居心地がよく歩きたくなる」まちなかの形成を目指す街づくりの考え方で、福生市もこのウォーカブル推進都市となっている。

2 公共施設の再配置等に係る課題について

質問のねらい

まちづくりの要諦は市民の合意を得つつ、市民と共にすすめることにあります。公共施設の総量抑制を市民との合意のもとどのように行っていくか、これからが正念場です。生涯学習関連施設そして学校の統合・再配置等は慎重に市民との合意形成を図る必要がありますが、一方である程度のスピード感も必要です。さらには財政確保の課題も大きい。そうした山をどのように超えていくのかを問いました。

公共施設の今後の在り方に関する市民との合意形成について

質問　コロナ禍により、合意形成に資する地域懇談会等を開催できなかった。今後の取り組みについて伺う。

答弁　令和3年度の懇談会はオンラインで開催し、実施後に、市役所庁舎及び市民会館において、検討成果をまとめたパネル展を行い広く周知した。また、福生市公共施設等総合管理計画の改定の検討にあたり、市民アンケート調査実施の際に市の取組について周知を図った。今後は地域懇談会を引き続き行い、計画や施策の検討段階に応じたテーマを設定し市民との合意形成に努める。

質問　アンケート結果から読み取れる合意形成に向けた課題は？

答弁　アンケート結果からは、市が計画で示した、公共施設の複合化・集約化の考えについては、概ね賛意を得られていた。また、福生駅西口地区公共施設と類似した機能を持つ既存施設については、他の用途で活用すべきという意見もあった。既存施設を維持した場合と、廃止した場合の維持管理コストの差についてより丁寧な合意形成を図っていく必要がある。

個別施設計画における施設保全･改修計画等について

質問　個別施設計画における施設保全・改修計画の推進に当たって再配置計画との兼ね合いや将来負担も含めどのように進めていくのか。

答弁　令和３年度中の計画策定を予定しており、現在作業を進めている。予防保全を基本として、特定の年度に工事が重ならないように調整し、財政負担の平準化を図った計画とする。なお、本計画は、個別施設計画に合せ、４０年間の計画としたが、具体的な公共施設の再配置については、現在検討中で、あくまでも、現状の各公共施設を安全に利用できるように、限られた予算の中で、改修工事等を実施していくための計画である。今後、再配置の具体化による諸条件が示された場合には、随時更新を図るが、数年内には具体的な再配置のプランを策定する必要がある。

質問　学校施設の更新、統廃合に関しては、防災や町会･自治会などをはじめとする地域コミュニティの課題など、関連する課題が多い。どのように検討を進めるのか。

答弁　学校施設は、子どもたちの生活、学習の場であり、どのような教育を実現していくのか、教育委員会とも連携しながら取り組む。また、学校に期待される防災、地域コミュニティ及び放課後対策など様々な機能、複合化による教育環境へのメリットも勘案しながら検討を進める。

3 小中一貫校等 今後の本市における教育構想について

質問のねらい

市は将来的に小学校4校を核とし、そこに生涯学習関連施設等を寄せていくイメージをもっています。そこには当然に学校の統合･再配置という大きな課題があります。統合･再配置が学校教育の観点から相応のメリットがなければ、地域との合意形成を構築していくことは難しいと考えます。そこで導入に向け検討を重ねている小中一貫校等の今後の福生市における教育構想について問いました。

質問　小中学校等の統合、再配置を視野に入れた教育構想のビジョンを明確に示していく必要がある。小中一貫校等の今後の福生市における教育構想について伺う。

答弁　小中一貫教育を実践している自治体では、高い教育効果が得られており、本市も導入に向けて積極的に検討していくべきだと考え理解を深めるための教職員悉皆研修会を実施した。また、小中一貫校の他にも学校規模･学校配置の検討、それに伴う学区域の在り方など、多くの喫緊の課題がある。これらについて協議するための、仮称「令和における福生市立学校の在り方検討委員会」を令和４年度に立ち上げ、今後の教育構想について、具体的な検討を進め、小中一貫校の導入の在り方を中心に５回程度の会議を開催する予定。

質問　教職員の悉皆研修会を行い、その後、教員の振り返りアンケートを行ったときく。そこで小中一貫校について、アンケート結果から読み取れる課題など、現時点での所見を伺う。

答弁　アンケートでは、「小中一貫教育において、上級生と下級生がお互いに意識し、刺激し合える関係が効果的だと感じた。」等、前向きに捉えている意見が多かった。一方、「できたらいいなと思ったが、実際に行うとなると教職員の気持ちの違いなどを含め、ハードルが高いと感じた。」等、懸念を感じている意見もあった。小中一貫教育は、小･中学校の全ての教職員、保護者、地域の方々が、一つの目標に向かって連携することが重要であり、まずは教職員が小中一貫校についての理解を十分に深め、その必要性を十分に感じることが課題である。

質問　他市の小中一貫校の制度導入では、学力と不登校の課題解決という目的もあった。福生市の学校が小中一貫校になった場合、どのようなメリットがあり、それはどのように教育課題を解決することができるのか伺う。

答弁　組織として期待される最も大きなメリットは、小中一貫校の教員は、全員に兼務発令がかかることである、例えば二中の英語科の教員が、一小の高学年の英語の授業で教鞭をとることなどが可能となる。地域の子供を小学校と中学校の先生がまさに一体となっての指導が可能となる。そうしたことを通じて学力の向上や不登校の未然防止等、本市の教育課題の解決が進むと考える。

新型コロナウイルス感染症対策特別委員会副委員長を拝命

新型コロナウイルス感染症委対策特別委員会の副委員長を拝命いたしました。9月4日に急逝された杉山行男副委員長の後任ということで、ご推挙いただきました。身の引き締まる思いです。市のワクチン接種状況をはじめ、あらゆるコロナ対応についての検証やコロナ禍における議会運営について、さらにはコロナ後の市民の社会活動等について検討し提言をまとめていきます。小澤委員長をしっかり補佐していきます。

Satokoji Topic はじめました！

これまで公式ホームページや SNSを通じて情報発信をしてきました。2月から、皆さんによりわかりやすく、親しみやすく感じていただけるよう「Satokoji Topic」を開始しました。デザインの力を借りてFacebook、Twitter、Instagram、LINEなどを通じて、より広く情報をお届けしていきます。少し情報量が多いものは、新たに開設した「note」というブログに掲載します。こちらに繋がるようにリンクを貼りますので、是非ご覧になっていただきたいと思います。

「これからは地方がもっともっと、しっかりしなければならない」コロナ禍で強く感じたことはそのことです。市民に最も近い地方議員がもっと力をつけ、しっかり仕事をしなければいけない。しかしながら、私は、最も市民に身近な市議会議員の姿が届いていないと感じます。これは私たちの責任です。市議会議員がどのように考え、行動しているのかをより皆さんに知っていただきたい。一層の発信を心がけていきます。

SNSで情報発信！

note
詳しくはブログで！

Facebook　Instagram　LINE VOOM　Twitter

佐藤こうじプロフィール

誕生～学生時代

1968年 東京都日野市生まれ。
日野市立第二小学校、日野市立第一中学校、
東京都立南多摩高校、中央大学法学部卒。
小学生時代・・・カブト虫・クワガタや魚獲りに明け暮れる。
中学生時代・・・卓球部所属（市や地区大会で優勝！）
高校生時代・・・卓球部と体操部に所属。ロックバンド結成。
大学生時代・・・法学、政治学を学び、政治学のゼミに所属。

職歴～現在

2015年　保険会社、繊維業界紙新聞記者、予備校講師、家業の建築業（型枠工事／二級建築士）を経て、福生市議会議員に初当選。議会運営委員会委員、総務文教委員会委員、議会改革に関する特別委員会副委員長、横田基地対策特別委員会副委員長、西多摩衛生組合議会議員

2019年　福生市議会議員に再選。総務文教委員長、議会運営委員、横田基地対策特別委員、議会改革に関する協議会 座長代行、福生病院組合議会副議長、市議会会派 正和会 政調会長

2021年　議会運営委員長、総務文教委員、新型コロナウイルス感染症対策特別委員会 副委員長、瑞穂斎場組合議会 副議長、市議会正和会 総務会長

生年月日　1968年10月28日（さそり座）　血液型 O型
趣味特技　カラオケ、卓球、読書（社会科学系等の本をよく読みます。漫画も好きです！）
政治観　地方自治は民主主義の学校である（J.ブライス）
家族　福生生まれの妻（介護福祉士）、社会人の長男・次男、高校生の長女
座右の銘　処人謙然（しょじんあいぜん）「人と接するときには和やかな態度で接すること」
地域活動　保護司、（社）不動福祉会理事、福生社交飲食業組合相談役顧問、福生市柔道整復師会顧問
福生市防衛協会事務局長、福生市ゲートボール協会事務局長、多摩西部議員交友会会員
ふっさボランティア・市民活動センターFVAC常任委員、福生不動尊世話人、福生市本町町会顧問

佐藤こうじ
公式ホームページ
佐藤こうじ 福生
https://www.sato-koji.com/

福生 生きがい都市宣言！

佐藤こうじ後援会 事務局
TEL/FAX 042-849-2196
koji.sato.office@gmail.com
〒197-0022 福生市本町79

［発行］佐藤こうじ後援会　〒197-0022 福生市本町79　討議資料